

第6回社会保障研究奨励賞授賞論文

○ 第2席の1

渡辺岑彦（東洋信託銀行数理課長）

「公的年金制度における最適保険料に関する考察」、『年金時報』No. 22, 昭和46年4月。

○ 第2席の2

筆宝康之（北海道大学経済学部助手）

「建設業における労資関係制度——<監獄部屋>をめぐって——」、『北海道大学経済学研究』第21巻第2号, 昭和46年7月。

選考経過

大内基金委員会は、社会保障研究所後援ならびに厚生省協賛のもとに、第6回社会保障研究奨励賞として、上記2編の論文の授賞を決定した。ここに論文審査委員会を代表して、授賞決定についての選考経過を報告したい。

今回の授賞は、昭和45年8月から昭和46年7月にいたる1年間の既発表論文を対象として行われた（本誌6巻第4号、67ページに発表された授賞要領参照）。そのため、あらかじめ社会保障関係の約60名の方々に対して、優秀なる論文の推薦を依頼し、8月末の締切日までに数名の方々から8編の推薦をいただいた。第1次審査でそのうち3編をしぼり、最終的に上記の2編とともに第2席（それぞれ賞金5万円）として授賞することに決定したのである。

審査委員会では、選考された2編の等席順位についてはいろいろと討議されたが、今回は第1席に該当するものなく、2編とともに第2席として認めることとした（上記の順序は論文の発表年月にしたがった）。また2編以外に佳作に該当するものもなかった。それにしても、今回の推薦件数が前回よりもはるかに少なく、しかも条件不適格のもの（単行本ならびに既に多くの業績発表のある方々の論文）が含まれていたことは、残念である。次回は、一層多くの論文を推薦していただくように努力したいと思う。

以下、2編の論文に対する各審査委員の諸意見をくんで、簡単に審査の要旨をとりまとめることにする。

渡辺岑彦「公的年金制度における最適保険料に関する考察」について

この論文は、公的年金制度において経済成長に応ずる給付改善を行った場合、一定の制約条件のもとで保険料引上げの最適な標準値を求めようとするものである。ここで考慮される条件としては、給付改善が既裁定分を含めて行われること、給付改善率は利子率を上回ること、収支関係は次第に

賦課方式に近接していくことなどである。このような問題は年金制度運営上極めて重要であるし、またこの種の数理的アプローチは大いに奨励すべきであるということは、審査会で一致した意見であった。ただ分析の内容についてはなお推論の不十分ともいうべき点が二、三見られる。たとえば、将来の給付費支出関数なるものの一定の型を導く場合の手続きについての詳しい説明を欠いているが、わが国のこれまでの厚年はきわめて未成熟段階にあったのであるから、これを今後成熟過程にはいる場合にどのように態様に変化するか、さらに厚年と制度の異なる国年における条件いかなどを明示すべきである。むしろ各制度毎に、また既裁定分と新規分とを分けて、それぞれに応じた假定を設け、将来の見通しを定めるべきであろう。なお、最初の年次系列で最適保険料が負値をとっていることは非現実的であって、改善を要するであろう。おそらくこれらのことは論者自身も気づかれていることと思われるが、今後の一層の研究を期待したい。

筆宝康之「建設業における労資関係制度——〈監獄部屋〉をめぐって——」について

この論文は、北海道・樺太・東北などの拓殖開発過程で形成された建設業の請負飯場制度として、移住出稼人たる請負人親方が貧農や都市窮迫民を吸引し、強制労役を行わしめたいいわゆる監獄部屋の意義を歴史的に解明しようとするものである。とくに著者は辺境開拓の特質、欧州大戦から大正末にかけての土建業増大にともなう影響、日中戦争後におけるアジア植民地労働の置換えなどの諸点を重視している。ところで、審査会ではこの論文が固有の社会保障研究分野をやや外れているのではないかという懸念が多く委員から述べられたが、結局のところそれが社会保障の欠如している場合の状況をとりあげたという意味で、必ずしも排するには当たらないという見解をとることにした。内容については、この論文が関係資料をよく渉猟し、論旨も明快であるという点では委員の意見がほとんど一致していたが、ただその観点がやや型にはまり過ぎており、回顧に偏して展望への手がかりを欠いているという強い異論が出された。ここでとりあげられた監獄部屋という制度は、戦後の今日においては、一部は解消し一部は変形していったわけだが、このような過程の経済的・社会的条件は何かという問題意識こそ、今日の時点ではもっと強調されてよいのであり、論者のこの方向への今後の展開を希望してやまない。

昭和46年11月

社会保障研究奨励賞論文審査委員会

委員長 山田雄三

本審査委員会の委員は次のごとくである。

山田雄三（社会保障研究所長）、鈴木武雄（武蔵大学教授）、馬場啓之助（一橋大学教授）、福武直（東京大学教授）、小山進次郎（厚生年金基金連合会理事長）、高橋武（ILO 東京支局次長）、小山路男（横浜市立大学教授）